

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
42000	X-13/31-B-1-420001	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×	
情報産業	西山 茂			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	選択	1年	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	選択	1年	
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	選択	1年	
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	1年	

授業目的

現代社会はコンピュータと電子通信（ネットワーク、特にインターネット）の複合した技術（ICT）によって支えられている。ICTはこれを供給する側（ICT供給産業）の存在は不可欠であるが、これを利用・活用する側（ICT活用産業）の拡大も重要である。本授業では、この二つを併せて「情報産業」と位置付け、それぞれの現状、市場構造、トレンド、最新情報を学ぶ。更に「情報産業」のインフラとなる標準化、情報産業政策、関連法制度、情報産業従事者の働き方などの動向と課題についても学ぶ。

本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。

<情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。>

<仕事の仕組みを系統的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。>

各回毎の授業内容

第1回

【授】イントロダクションー 情報産業の位置付けとデジタル社会の意味
【前・後】以下の参考文献などを用いて事前に2時間予習を行い、授業後教科書及び配布資料に基づいて復習2時間行う。

第2回

【授】ICT供給産業(1)ー コンピュータ産業
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第3回

【授】ICT供給産業(2)ー 電子ネットワーク産業
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第4回

【授】ICT供給産業(3)ー 情報サービス産業
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第5回

【授】ICT活用産業(1)ー デジタルコンテンツビジネス
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第6回

【授】ICT活用産業(2)ー 商取引(eコマース)
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第7回

【授】ICT活用産業(3)ー 教育(eラーニング)、Web関連産業
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第8回

【授】ICT活用産業(4)ー 行政(e-Gov)その他の産業分野
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第9回

【授】情報産業基盤(1)ー 政策・法令と標準化
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第10回

【授】情報産業基盤(2)ー 知的財産権
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第11回

【授】情報産業基盤(3)ー 情報セキュリティと個人情報保護
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第12回

【授】[12]情報産業基盤(4)ー 情報産業における人材と働き方
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第13回

【授】情報産業及びデジタルエコノミーの将来展望
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第14回

【授】情報産業最新情報アップデート (ICT及び利用法の最新動向など)
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第15回

【授】まとめー ICTがもたらす仕事、家庭生活の変化(過去、未来)、ICTの社会へのインパクト
【前・後】教科書及び配布資料に基づく予。復習(予習3時間、復習1時間)

第16回

【授】定期試験
【前・後】教科書及び配布資料に基づく復習(復習4時間)

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表(口頭・実技)							
演習							
その他							

概ね次のように評価する。

- ・期末テスト：60%（理解度確認テストを1回以上提出していること）
- ・理解度確認テスト（Quiz）：40%（基本的には単元ごとに実施する）

<フィードバック法>

- ・理解度確認テストは授業の中で答え合わせを行う。
- ・定期試験については、ポータル授業連絡機能を用いて、試験結果の講評を全履修生に伝える。

教科書参考書

初回到教科書を配布する（コピーの場合もある）。

単元ごとに、事前に講義資料をポータルに登録する。各自ポータルからダウンロードして利用する。

参考文献：

- ・政府・業界系白書：情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、デジタルコンテンツ白書等
- ・民間の白書等：インターネット白書；インターネットビジネス白書；情報通信ハンドブック等
- ・OECDレポート：OECD information Technology Outlook 2010、2012（出版されれば）
- ・米国商務省レポート：Digital Economy 2003、<http://www.esa.doc.gov/Reports/digital-economy-2003>
- ・林 紘一郎著、電子情報通信産業、電子情報通信学会、2002

受講に当たっての留意事項

- ・理解度確認テストの提出回数が0回である場合は期末試験の受験資格を与えない。

学習到達目標

1. ICT供給産業（コンピュータ、ネットワーク、情報サービスなど）の動向と課題を理解し、説明できる。（期末テスト／理解度確認テスト：30%／10%；以下同様）
2. ICT活用産業（商取引、教育、行政など）の動向と課題を理解し、説明できる。（10%／10%）
3. 情報産業基盤（法制度、標準化、知的財産権、情報セキュリティ、個人情報保護、情報産業人材の働き方と人材育成）に関する知識を理解し、説明できる。（10%／10%）
4. デジタルエコノミーの進展と情報産業政策の動向およびICTの潮流を理解し、説明できる。（10%／10%）

JABEE

関連する学習・教育到達目標：G

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習